

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 稲城市立稲城第三中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒 206-0812
稲城市矢野口3043

E-mail : inagi3j@educet.plala.or.jp

Website : <http://academic1.plala.or.jp/ine3j/>

児童生徒数：男子 235名 女子 203名 合計 438名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 プロジェクトの実施方法

本校は平成25年9月30日にユネスコ・スクールとして承認された。本校の本年度のESDの取り組みは以下のとおりである。

(1) 取り組みの目的・育みたい力

- ・地域社会に目を向けさせ、環境学習、職場体験、ボランティア活動、地域行事への参加等を通して持続可能な社会づくりに向けての課題を見出し解決していこうとする態度を育成する。
- ・伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、主体性のある日本人となるための基盤となる道徳性を育てる。

(2) 指導の重点

- ・自ら学び、考え、課題を解決する態度を育て、地域の一員としての自覚を高めることから、日本国民として、さらに地球市民として生きる態度を育む。
- ・人間性を育み、他者、社会、自然環境との「かかわり」を尊重できる個人の育成に努める。
- ・職業、福祉、保育、環境など多様な体験活動を取り入れる。

(3) 具体的な取り組み

- ・職場体験や保育体験を総合的な学習の時間に明確に位置づけ全校をあげて実施する。
- ・目的に沿って各教科の横断的な学習を計画する。例えば、音楽科では我が国の伝統音楽を学び、音楽の多様性を理解する。技術・家庭科では、養蜂や栽培など、環境に配慮した生活の工夫を学ぶ。
- ・地域と連携した防災訓練を実施し、「自助・共助・公助」の意識を高める。

3 本年度の重点的な取り組み

【重点取り組み1】 教職員のESDについての理解を深める。

稲城市では、市立小・中学校におけるESDの視点を生かした教育活動を推進するとして、「持続発展可能(ESD)の視点を生かした、知・徳・体のバランスの取れた生きぬく力を育む稲城の教育 ～2050年の大人づくり～」という目標・スローガンを掲げ、市全体でESDの推進に取り組んでいる。

◆題材として、国際理解、環境・自然、人権、地域、防災 等

◆視点として、問題解決能力の育成、つながり、探究、思考力・判断力・表現力等

以上のようにESDは市立小中学校共通の課題であり、それにともなって教職員のESDに関する理解や指導力を高めることが必要である。このことから、現段階で、ESDを推進する上で最も重要なことは、教職員のESDに対する研修であると考え以下のように研修会を実施した。

①目的 ESDに対する理解を深め、実践する力を育む。

②日時 平成26年7月18日 午後2時

- ③講師 東京学芸大学 教職大学院教授 成田喜一郎先生
- ④内容 「学校でESDをどのように実践するか」
- ・ ESDとは何か、その具体的な内容
(持続可能・Sustainableとは)
 - (発展・Developmentとは)
 - ・ ESDにはどのようなカリキュラムが必要なのか
 - ・ ESDでどのような子供たちを育むのか
 - ・ ESDカリキュラム授業デザイン 構成・実践・評価
- ⑤成果 研修会では教職員から質問や意見が多数あげられた。講師とのやり取りの中で、少しずつESDについてのイメージが構築され、各教科等において、具体的にどのようにESDを進めるのかについて考えることができた。

【重点取り組み2】環境教育の一環として「養蜂」について学ぶ。

養蜂とは、蜂蜜(はちみつ)や蜜蝋(みつろう)を採取するために、ミツバチを飼育することである。養蜂は、ミツバチという生物や植物の花といった環境や自然に関すること、ハチミツという食文化に関すること、養蜂業という職業に関すること、地域の方とのかかわりに関する事など、「他人、社会、自然環境との関係性を認識し、かかわりやつながりを尊重できる個人を育む」といったESDで学ぶさまざまな観点が含まれていることから、本校では、平成24年度からESDの実践の柱の一つに養蜂を位置づけ、地域の養蜂業の方にお手伝いいただきながら、主に技術や家庭、理科での教材化を目指して取り組みを進めているところである。

① 教科としての位置づけ

本校の養蜂は、主として技術科の学習に位置づけて教材化に向けて研究を進めている。技術科では、学習指導要領に「生物育成に関する技術」が位置づけられている。学習指導要領の解説では、「生物育成に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるとともに、生物育成に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深める」と記載されており、養蜂は、まさしく、この学習内容に合致した教材であるといえる。

例えば、養蜂箱や設置場所については、ミツバチを生育するうえでの基礎的な知識や技術についての学習になる。また、養蜂そのものが、ハチミツを生成することですから、社会や環境に果たす役割や影響についての学習となる。

さらに、実際にハチミツは食品であることから、家庭科の「食生活と自立」に関して、ハチミツの栄養的特質について学習することや、調理実習と組み合わせ、基礎的な日常食の調理ができることとの関連も図ることが可能である。

②具体的な取り組み

養蜂を技術・家庭科の単元「生物育成」における教材とするため、本校中庭に養蜂箱を設置し、飼育や観察を通して、生物育成(養蜂)についての具体的な指導計画を作成した。同時に、天然のハチミツについて食の安全と衛生という面でも学習を進めるための指導計画の作成に取り組んだ。

また、実際に生徒たちに養蜂箱からハチミツを採取する体験を実施するとともに、採取したハチミツを調理実習で作成したホットケーキにかけて食べるという授業を実施した。

③取り組みの発信

本校の養蜂についての取り組みを平成26年5月23日に実施された「平成26年度 多摩地域ミーティング 『持続可能な発展のための教育（ESD）』の推進について」において主として多摩地域の教員や地域の方々に向けて発表した。

さらに、平成26年10月8日に開催された「稲城市立小中学校教育研究会、技術家庭科部会」において、調理実習でホットケーキをつくり、それに本校で採取したハチミツをかけて食べるという授業について市内小中学校全校に向けて発表した。

【重点取り組み3】地域の方と連携した防災訓練の実施

災害は、いつ、どこで、どのような規模で発生するかわからない。どのような災害が発生した場合も『自分の命を自分で守る』ことが最も重要である。そのために、家庭や地域と一丸となって防災管理・教育を進め、防災に向けて、生徒が主体的に行動する力（自ら考え、判断し、行動する力）を身に付けることが重要であると考え、地域と連携した防災訓練を実施した。

① 「地区班別集団下校訓練」の実施

- ◆ねらい 「防災の日」（総合防災訓練）の取り組みとして、安全に帰宅するために、地区ごとに地域の方と一緒に集団で下校し緊急時に備える。
- ◆日時 平成26年9月1日
- ◆内容 地域の方の引率による地区班別集団下校。解散地点を確認し、自宅まで安全に帰宅する。

② 「自治会防災訓練」の実施

- ◆ねらい 地域（自治会自主防災組織、消防署、消防団、おやじの会等）と連携した防災訓練を通して地域と共に防災について学ぶ機会とする。
- ◆日時 平成27年3月8日
- ◆内容 ・ポンプ自動車からの放水体験（雨天時のため中止）、ホース投げ
・簡易消火器を使った消火体験、煙体験、119番体験
・炊き出し体験（非常食）

